



第68号

# まちづくり来ぶらり

## まちづくりライブラリー

全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料、建築・交通・環境などの図書、研究機関・シンクタンクなどの調査研究報告書などを収集しています。

## 特集 松重閘門

1924年（大正13年）名古屋市に都市計画運河として決定された中川運河は名古屋港と笹島貨物駅を結ぶものとして1926年（大正15年）起工され、1930年（昭和5年）に幹線と北支線が完成し、当時「東洋一の大運河」と呼ばれました。

翌年には幹線終点から東支線が完成し、1932年（昭和7年）に全通しています。中川運河に設けられた松重閘門を通じて中川運河と堀川との連絡が可能になり大幅な輸送時間の短縮がなされました。

これは、中川運河が既設の堀川や新堀川と違い閘門式であり、水位差を調整することにより干潮、満潮の影響を受けずに船の行き来が可能となったためです。

物流幹線として名古屋の経済を支えた中川運河も1964年（昭和39年）をピークに昭和40年代に入ると、陸上輸送にその役目を奪われ、松重閘門は1970年（昭和45年）に使用休止になり、1976年（昭和51年）には廃止が決定しました。

廃止を受けて取壊す予定であった松重閘門は、保存の声を求める市民の声により残されることになりました。

1986年（昭和61年）には名古屋市指定有形文化財に指定され、周辺は松重閘門公園として整備されています。1993年（平成5年）名古屋市都市景観重要工作物として、また、2010年（平成22年）土木学会により選奨土木遺産に2012年（平成24年）まちなみデザイン20選に選定されています。



日没からライトアップされている松重閘門は4つの塔が運河上に照らし出され、名古屋のまちのランドマークとしての役割を果たしています。

◆参考文献 ※( )内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

- 『堀川沿革史』 末吉順治/著 (Sc-5)
- 『中川運河再生計画』 名古屋市住宅都市局まちづくり企画部臨海開発推進課 名古屋港管理組合企画調整室/編 (2B90-2012)
- 『運河と閘門 水の道を支えたテクノロジー』 久保田稔・竹村公太郎・三浦裕二・江上和也/編著 (Gc-7)
- 『<水>と<土>のデザイン 中川運河と河岸地域を巡る低地の開発について』 堀田典裕/著 (1A-15-カ-2012)
- 『官庁建築家・名古屋建築課の人々とその設計』 瀬口哲夫/著 (Se-6)

## まちづくりライブラリー資料展

### 「尾張名所図会にみる名古屋」展

2014年6月27日(金)  
～9月24日(水)



尾張名所図会を中心とする尾張の地誌に関する資料を展示しています。



### 次回資料展予告

2014年9月26日(金)～11月26日(水)  
「伊勢湾台風」展

## 職場体験・インターンシップの受入

名古屋商業高校2名の生徒が、まちづくりライブラリーにて図書・雑誌に関する業務、受付業務等を体験しました。

また、夏季インターンシップとして、名古屋市内の5大学から5名の学生の受入を行っています。

## お気に入りの一冊

### 「中京財界史」(復刻統合版)

著者：杉浦英一(城山三郎)  
出版社：中部経済新聞社  
請求番号：Scシ

「中京財界史」は、昭和30年5月から11月まで中部経済新聞に掲載され、その後単行本(上下2巻)となった。昭和61年に復刻・統合版(本書)、平成6年に文庫版が発行された。

著者は城山三郎であるが、作家活動の初めとなる第一作で、本名の杉浦英一で出版された。

この本には名古屋のまちづくりの歴史を語る上で重要な背景となる物語が網羅されている。名古屋の経済、ひいては名古屋そのものの発展のために「創意の人」が如何なる役割を果たしたか、膨大な資料の中から魅力的な人間ドラマを構築している。

本書には、文庫版にはない160点もの写真が載っており、その点も楽しめる。

登場人物が非常に多く、また複雑に絡んでいるので人名を覚えるのが大変であるが、名古屋商工会議所が会員向けに文庫版を再刊した時に作成した「年表・索引集」が大変参考になる。(K)

